

大豆畑から消えたマメダオシ

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

早川 宗志

生い茂った草むらにラーメンをぶちまけたような光景に出くわすことがある。このラーメンの正体は、アメリカネナシカズラというツル性の寄生植物である（図-1）。クズなど他の植物に絡みつき、茎の一部が他の植物体内に入り込むことで栄養を奪い取っている。植物でありながら光合成をせず、緑色の葉も持たない変わり者。さらに、栄養だけでなく、他の植物から水分も奪い取るため、根も必要ない。つまり、アメリカネナシカズラは「根も葉もない植物」なのである。「根も葉もない話」とは、全く根拠がない噂という意味であるが、「根も葉もない植物」は自然界に実在する。このような「寄生する一される」という関係では、寄生する側を寄生者、寄生される側を寄主（もしくは、宿主）と呼ぶ。図-1Aの場合、クズが寄主植物、アメリカネナシカズラが寄生植物となる。

アメリカネナシカズラが外来種であるのに対して、日本在来のヒルガオ科ネナシカズラ属植物には、ネナシカズラ、クシロネナシカズラ、マメダオシ、ハマネナシカズラがある。これらの在来種のうち、マメダオシは、日本、台湾、中国、

東南アジア、オーストラリアに分布する寄生性の一年草で、国内では北海道～琉球に生育する（藤井 2018）。

マメダオシは、“豆倒し”の名が示すとおりダイズなどに寄生する畑雑草である。マメダオシの発生に関しては、局地的に多発（笠原 1985; 古谷・野口 2014; 浅井 2015）、耕作地における雑草化の程度は不明（伊藤 1993）と異なる記述が存在する。また、本種は絶滅危惧 IA 類に選定されている希少種である。

この記述の違いはなぜ起こるのか？ その原因の一つは、ネナシカズラ属の 3 種（アメリカネナシカズラ、マメダオシ、ハマネナシカズラ）が形態的に類似し、混同されるためであろう。藤井（2019）は、マメダオシ標本の公開データにおける情報の正確性（同定の正しさ）が 7 割程度であったことを報告している。このため、マメダオシの同定について、文献記録をそのまま信頼することはできない。

藤井（2018）は、再同定した 132 点のマメダオシ標本の採集年代が、1969 年以前 114 点（86.4%）、1970 年以降 12 点（9.1%）、採集年不明 6 点（4.5%）であったこと、最も新しい標本が 1996 年採集であったことから、マメダオシが 1970 年以降に激減して現在は絶滅に近い状態であることを推測している。

このように、現在、マメダオシは絶滅寸前ともいえる状態にある。そのため、大豆畑からマメダオシは消え、代わりにアメリカネナシカズラが発生していると考えるのが自然だろう。

日本に生育するネナシカズラ属の同定を困難にしている理由の一つとして、形態的に比較できる写真が掲載されてこなかったことが考えられる。そこで、本稿に 4 種の比較写真を掲載する（図-2、図-3）。マメダオシは、花冠内面の鱗片が二裂し、縁の小突起が少ないことが特徴である（図-3F、藤井 2013）。ネナシカズラ属植物の各種の識別ポイントや分布については、既報（藤井 2013; 2018; 2019; 早川ほか 2018; 藤井ほか 2022, 早川・山本 2024 など）を参照いただきたい。



図-1 ネナシカズラ属 3 種の生育の様子。A：アメリカネナシカズラ（2015 年 8 月 10 日、撮影：大賀教平）、B：マメダオシ（2024 年 9 月 4 日、山形県）、C：ハマネナシカズラ（2019 年 9 月 7 日、静岡県）。

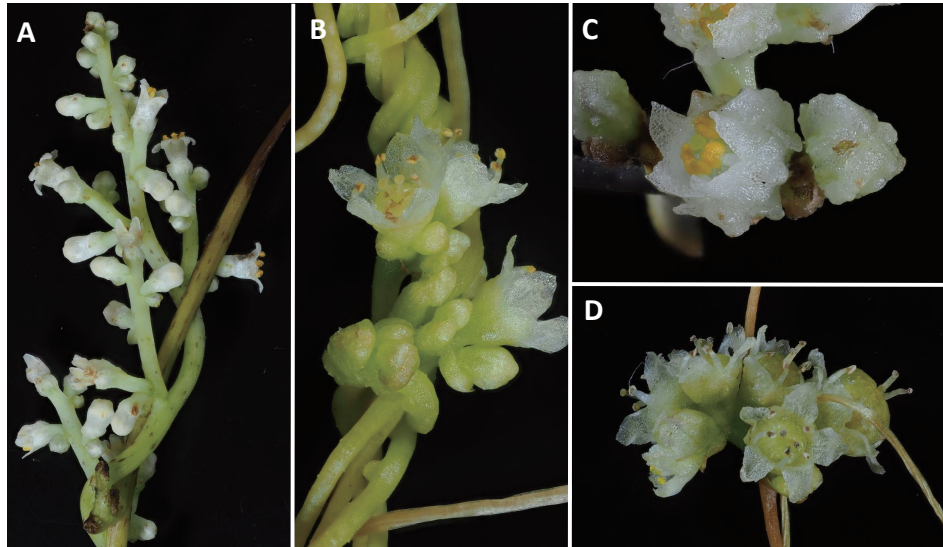


図-2 ネナシカズラ属 4 種の花序の比較。A：ネナシカズラ，B：マメダオシ，C：ハマネナシカズラ，D：アメリカネナシカズラ（撮影：石橋正行）。

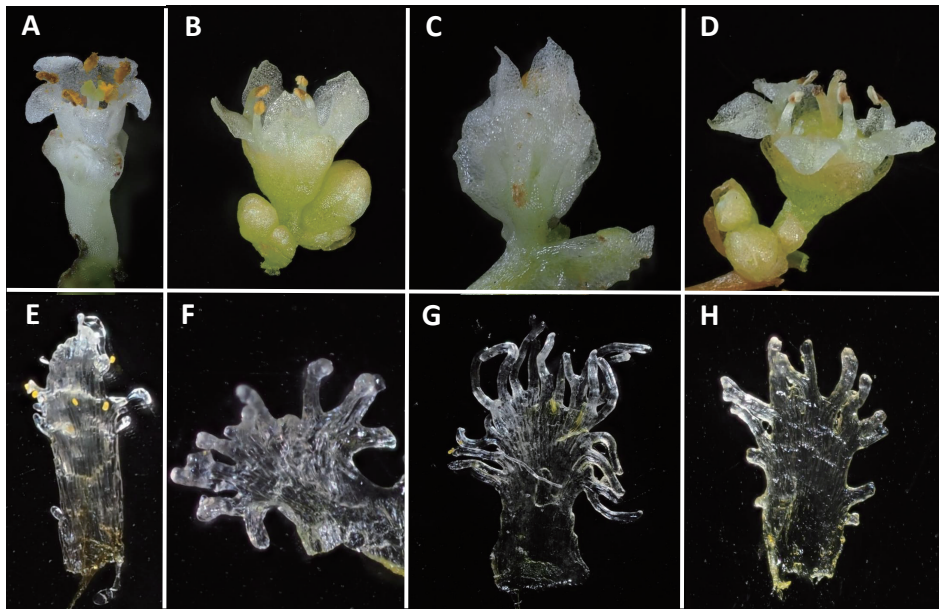


図-3 ネナシカズラ属 4 種の花の比較。A：ネナシカズラの花，B：マメダオシの花，C：ハマネナシカズラの花，D：アメリカネナシカズラの花，E：ネナシカズラの鱗片，F：マメダオシの鱗片，G：ハマネナシカズラの鱗片，H：アメリカネナシカズラの鱗片（撮影：石橋正行）。

謝 辞

マメダオシの現地調査にご協力いただいた沢和浩氏，ネナシカズラ属植物の写真を撮影いただいた石橋正行氏，大賀教平氏，文献をご教示いただいた浅井元朗氏に感謝します。

参考文献

浅井元朗 2015. 植調雑草大鑑 . p. 247. 全国農村教育協会，東京．
藤井伸二 2013. ハマネナシカズラ (ヒルガオ科) の国内分布 (調査報告) . 分類，103-107.
藤井伸二 2018. 寄主植物を用いたマメダオシ (ヒルガオ科) の生育環境の推定 . 植物地理・分類研究 66, 177-184.

藤井伸二 2019. 公開標本データの信頼性に関する検討事例：マメダオシ (ヒルガオ科) . 日本生態学会誌 69, 127-131.
藤井伸二ほか 2022. 大分県産ハマネナシカズラの標本を見いだす . 植物地理・分類研究 70, 85-88.
古谷友男・野口勝可 2014. ネナシカズラ . 森田弘彦・浅井元朗 (編) 原色雑草診断・防除辞典 . pp. 126-127. 農文協，東京．
早川宗志・山本薫 2024. ハマネナシカズラ (ヒルガオ科) の東限集団 . 植物研究雑誌 99, 203-205.
早川宗志ほか 2018. マダラケシツブゾウムシ (コウチュウ目ゾウムシ科) の寄主植物の再検討 . さやばねニューシリーズ (30), 51-55.
伊藤操子 1993. 雑草学総論 . 養賢堂，東京．
笠原安夫 1985. 日本雑草図説 . pp. 144-146. 養賢堂，東京 . (第 12 版)